平成二十五年度

第二十三回島根県雲南市

島根県雲南市教育委員会

小 学 生 低 学 年 の 部

最優秀賞 わたしのかんがえた「へいわ_

優 秀 賞 どんなこんなんにもまけない

いのちを大事に

佳

作

ぼくのしあわせ

学校も心もピカピカに

みんなとなかよくなりたいな

雲南市立三刀屋小学校

島根県 松江市立八雲小学校

島根県

島根県

雲南市立久野小学校

雲南市立鍋山小学校

雲南市立久野小学校

雲南市立三刀屋小学校

島根県

今業落紫大紫廣紫石と勝か 間か 合め 坂さか 澤も 倉ら

葉ば 飛び 真ん 寧ず 煌る か は 喜き竜ッ也ゃ己きめ

学 生 高 学 年 の 部

小

最優秀賞 人とつながり深まる想

秀 賞 平和ってなに

優 佳 作 日本人も中国人も人間だよ

平和を

雲南市立木次小学校

島根県

雲南市立鍋山小学校

島根県

雲南市立三刀屋小学校

雲南市立久野小学校

坪電石に田た西に 倉を飛び中が村が

優ゅ 佳か 太な 望っ 衣い代は士し美み

中 学 生 の 部

最優秀賞 知って感じて考えたい

佳 優 秀 賞 祖父の思いを受け継い

作 やるべきこと 祖父から僕へ

高 校 生 の 部

佳 作 沖縄が教えてくれたこと

みえる平和とみえない平和

11 自分にできること

> 愛知県 滝学園滝中学校

沖縄県 沖縄県 本部町立本部中学校 糸満市立糸満中学校

糸満市立糸満中学校

金ん伊い玉を伊い 波は城き藤等

城党 由の盛り美み正ま 佳が 瑛を 織が 子こ

岡山県立倉敷南高等学校

岡山県

島根県

島根県立三刀屋高等学校

島根県立飯南高等学校 藤な陶す奥な

原は 山き 原は 聡さ 南なり、電気を

せ

神が長が川が松か 馬ま坂を井い川か

佳

作

戦争に大義はな

千葉県

石川県

広島県

兵庫県

ありがとう」が平和の絆

優

秀

賞

日常の優しさ

最優秀賞

平和な春の空の下で

般

の

部

つを 夫ぉ 之ゥ き

隆が康が千ち

小学牛低学年の部◆

賞 秀

わたしのかんがえた「へいわ」

島根県雲南市立 三刀屋小学校 二年

勝っ 葉ば

は な

で、へいわの本を書きつづけられました。わたしは、あ ないのに、じぶんのことはほおっておいて、まわりの人 の手あてを先にしておられました。そして、にょこどう 行きました。はかせは、じぶんのいのちがあと三年しか してこんなことがあってはいけないと思いました。 んなひどいことがあったことをはじめてしりました。そ わたしは、 町たんけんで、ながいたかしきねんかんに

「みんなはへいわってどんなことだと思う。」 した。先生が、 いわを」というメッセージについてみんなでかんがえま 学校にかえってから、はかせが千まいも書かれた「へ

と聞かれました。せんそうがないこと、だれもしなない

じゃないかな、とみんなのかんがえを聞きながら、じぶ く分からないけど、へいわっていい気もちがするもん いました。 んがしあわせな気もちになったときのことを思い出して のえがおが見られること…。何だろう、へいわって。よ こと、みんながたのしい気もちでくらせること、家ぞく

たのです。 ちゃんが来て、わたしの絵にむかって、こう言ってくれ うけんめいかいていたときのことです。友だちのじゅり ぎょうかん休みに、ノートにじぶんのかおをいっしょ

くなりました。 「かわいいね、はなちゃん。すごいね。」 いっしょうけんめいかいていたわたしは、すごくうれし

二人でジャンプをしながらだっこをしてもらいました。 た。わたしは、たのしくてうれしくてしあわせでした。 さんにジャンプをしながらだっこを、そしてさいごには です。わたしは、お母さんにおひめさまだっこを、お父 い日だっこをしてもらうしゅくだいがあったときのこと 二人とも、わたしのために何どもだっこをしてくれまし もう一つ思い出したことがあります。おうちの人にま

あわせな気もちになることじゃないかな。たしを大じに思ってくれている。へいわって、こんなしみんなわたしがうれしくなることをしてくれている。わかりました。じゅりちゃんも、お母さんも、お父さんも、そんなことを思い出していたとき、わたしははっと分

す。

はかせは「へいわ」になるためにしたいと思うのでかえると、「へいわ」ってとても大じだと思うのです。んぜんちがうかもしれません。でもはかせのことをかんんぜんちがうかもしれません。でもはかせのことをかんんぜんちがうからとがよく分からないので、はかせがいしはせんそうのことがよく分からないので、はかせがいしはかせは「へいわを」を書きつづけられました。わたしなかせは「へいわを」を書きつづけられました。わた

しで「へいわ」をひろげていけるじぶんになりたいと思います。がんばっている友だちに、「すごいね。」っと思います。がんばっている友だちに、「すごいね。」っちゃんがわたしにしてくれたように、クラスのみじゅりちゃんがわたしにしてくれたように、クラスのみしで「へいわ」をひろげていわ」は、だれかを大じにし



小学牛低学年の部◆

秀

優

どんなこんなんにもまけない

賞

島根県松江市立 八雲小学校 三年

倉క かなめ

お母さんと「ながいたかし記ねん館」

に行き

ました。たしか、十一月ごろだったと思います。

ぼくは、

地元の小学生が、自てん車でやってきて、本を読んだり、 けいあるしりょうなどがたくさんかざってありました。 記ねん館には、ながいはかせの作品やせんそうにかん

全部のてんじを見た後、 記ねん館の方が 調べたりしていました。

「テレビがありますよ。見ませんか。<u>」</u>

とあんないしてくださいました。

いる作品やはかせの生き方がどんどんわかっていきまし らいました。その番組を見ているうちに、てんじされて ぼくは、たくさんある番組の中の一つを上えいしても

> 見せてもらうことにしました。それは、 たからです。 せんそうのことやはかせのことをもっと知りたいと思っ た。ぼくは、記ねん館の方におねがいして全部の番組を ぼくの知らない

体のじょうたいが悪くなりました。それでも、たくさん たり、たくさん「ほうしゃ線」をあびたりして、もっと まいました。そして、その上に原子ばくだんでけがをし ちょくせつ病気を調べることにしました。それを何年か うしゃ線」のお医者さんになりました。そのうちに、せ 耳の病気になって、ちょうしんきが使えないので、「ほ れたりしながらも人のためにがんばっているはかせは何 の人をたすけつづけました。ぼくは血を流したり、 つづけているうち、とうとうはかせは白血病になってし は、かんじゃさんのために、「ほうしゃ線」をあびながら、 めの写真のフィルムがなくなってしまいました。はかせ にでも立ち向かうゆうかんな人だと思いました。 んそうがひどくなって、かんじゃさんの病気を調べるた んになりたいと、たくさん勉強をしていました。でも、 ながいはかせは、長さきでお父さんのようなお医者さ ぼくはれきしが大すきで、「山中しかのすけ」 のこと

いしました。んなんにもまけない強い心をもった人だと思い、そんけんなんにもまけない強い心をもった人だと思い、そんけはかせはまるで「山中しかのすけ」のように、どんなこを調べたり、よろいのもけいを作ったりしていますが、

元気づけます。 はかせは、もっと病気がひどくなりましたが、それではかせは、もっと病気がひどくなりました。ほくは、感動して、そのお金で、図をはすごい人ですよね。人のために…と思う強い心と、たです。ぼくは、しょう来れきしまが、「ながいたかしはかたです。ぼくは、しょう来れきした。にもうれしかったです。ぼくは、しょう来れきしまが、さい後までがんばる力になったのでしょうかしこさが、さい後までがんばる力になったのでしょうかしこさが、さい後までがんばる力になったのでしょうれきし上のゆうかんな行動をしょうかいして、みんなをれきし上のゆうかんな行動をしょうかいして、みんなをれきし上のゆうかんな行動をしょうかいして、みんなをれきし上のゆうかんな行動をしょうかいして、みんなをれきしよのように、とてもうれしかった。

はかせ、ぼくの活やくを見ていてください。



▶小学生低学年の部◀

佳

いのちを大事に

作

三刀屋小学校 三年島根県雲南市立

演者 澤か

寧^t

から、ぼくたちは幸せなのだなあと思いました。よした。この本には、平和ってどういうことなのかがたとも平和ということだと書いてありました。ぼくたちがとも平和ということだと書いてありました。ぼくたちがとも平和ということだと書いてありました。ぼくたちがら、ぼくは、「へいわってどんなこと?」という本を読みぼくは、「へいわってどんなこと?」という本を読み

「人のいのちがうばわれている。」ということに、変わり

はないです。

本の中に、「いのちはひとつ、たったひとつのおもたくで、いいのち。」という言葉がありました。「おもたい」といいのちがなくなれば、その人を大せつに思うたくさんのに、たくさんの思いがあるから、いのちはおもたい」といいのち。」という言葉がありました。「おもたい」とい大せつなのだと思います。一人の大せつなのだと思います。一人の大せつなのだと思います。

になりたいと思いました。さしく声をかけてくれたことがきっかけで、おい者さんがあります。小さいときは体がよわくて、よく病院にかがあります。小さいときは体がよわくて、よく病院にかぼくは、三才のときからおい者さんになるというゆめ

それから、いろいろな本を読んだり、話を聞いたりして、いのちの大切さをしり、さらにおい者さんになりたなっても、たすけることができないいのちは、たくさんなっても、たすけることができないいのちは、たくさんちは、できるかぎりたりようにおいろな本を読んだり、話を聞いたりし

をうばう人がいるからです。たしかに今は、日本ではせ

れることは、すくなくはなったと思います。だけれど、

んそうをしていないので、むかしより、いのちがうばわ

ぼくは平和ではないと思います。なぜなら、人のいのち

だけれど、今の時代が本当に平和なのかと考えると、

をしていくことが大せつだと思います。一人一人が、いのちを大事に思って、自分にできることらないけれど、ぼくは自分にできることをしたいです。どうしたら、せかいを平和にできるのかとかは、わか



√学牛低学年の部●

佳 作 ぼくのしあわせ 島根県雲南市立

久野小学校 一 年

坂☆ 真ん 也ゃ

した。 は、すごくしあわせなことなんだということがわかりま ぼくは、たくさんのひとにまもられています。それ

ふかふかのおふとんでねることもできます。 まもってくれるから、ぼくはまいにちしあわせだよ。お いちゃんもおばあちゃんもいもうともいます。みんなが かあさんは、ぼくをぎゅっとだきしめてくれます。おじ は、おやすみのひに、いっしょにあそんでくれます。お いしいごはんやおかしをおなかいっぱいたべられるし、 おうちには、だいすきなかぞくがいます。おとうさん

> でもいまはだいじょうぶです。だって、せんせいやおに せいは、ひとりしかいないからすごくしんぱいでした。 いさん、おねえさんがまもってくれます。

ひらがなはぜんぶかけるようになったし、たしざんだっ にいさんやおねえさんたちといっしょにあそびます。み べんきょうは、むずかしいこともあるけどだいすきです。 すいようになげてくれます。 てできるようになりました。やすみじかんになると、お んきょうをおしえてくれるから、さびしくないです。お んなすごくやさしいです。ぼおるだって、ぼくがとりや きょうしつではひとりだけど、せんせいがやさしくべ

あわせです。 みんながまもってくれるから、ぼくはがっこうでもし

した。 るひともいることを、せんせいがおはなしをしてくれま でも、せかいには、かなしいおもいをしてくらしてい

くて、しんでしまうあかちゃんがいること。おうちがな くて、あついひもさむいひも、そとでねているひとがい いるこどものこと。おなかいっぱいごはんがたべられな かぞくとはなれてしまって、ひとりぼっちでくらして

ん。ぼくは、四がつに一ねんせいになりました。一ねん

ぼくをまもってくれるのは、かぞくだけじゃありませ

たらとおもうと、さびしくてなみだがでます。 ろなおはなしをききました。ぼくなら、さびしくて、ま ともだちとあそぶことができないこどものこと。いろい ること。おべんきょうがしたくても、がっこうにいけな いにちないているだろうなあ。もし、かぞくがいなくなっ いこどもがいること。ちいさいうちからはたらいていて

きょう、おうちにかえったら、

ひとにまもられて、たくさんのちからをもらっているか でよりもっとがんばります。だって、ぼくはたくさんの と、おねがいするよ。それに、おべんきょうも、いまま 「ぼくをひとりにしないでね。ずっといっしょにいてね。」

あきらめずにがんばります。 とをたすけたりして、へいわなせかいにしたいです。 たら、こわれているものをなおしたり、こまっているひ に、まいにちおねがいをします。そして、おとなになっ これからは、せかいのぜんいんがしあわせになるよう ずっとずっと、しあわせなひがつづくように、ぼくは



小学牛低学年の部●

佳

学校も心もピカピカにー

作

島根県雲南市立 久野小学校 三年

合い 飛び

で **竜**り

うじに行くとごみがたまっていてが~んという気持ちに がいいのです。木曜日はそうじがない日なので昼休み思 学校がきれいになると勉強したり生活したりする時にと なります。だけど気を取り直してそうじをして、きれい いっきり遊びます。気分すっきりなんだけど金曜日にそ ことは大変だけど、それだけきれいになった時には気分 てもいい気持ちになります。少ない人数でそうじをする がしたり、他のそうじ場所に手伝いに行ったりします。 のそうじが終わったらもっときれいにできるところをさ 校のすみずみまできれいになります。ぼくは、早く自分 も小さな学校です。それでもみんなでそうじをすると学 ぼくが通っている久野小学校は全校児童十五人のとて

> をがんばれます。学校中にぼくがそうじするところが まんぞくです。 あってきれいになったところをみんなが使ってくれると になるとまたやったあという気持ちになって勉強や運動

ピカピカにしたいです。 りそうです。たくさんのそうじ場所をたくさんの友達と 大東小学校は久野小学校よりずいぶんたくさん子どもが います。校舎も広くてたくさんそうじをするところがあ てしまうことになりました。来年は大東小に行きます。 ていたんだけど、久野小学校は今年いっぱいでなくなっ ずっとずっとこの久野小をきれいにしていこうと思っ

と思いました。交流活動で大東小の友達のいいところが た。しかもその発表の仕方を工夫して練習しました。決 は話し合い活動の時自分から堂々と意見や理由を言って 下なのにぼくにたくさん話しかけてくれました。三年生 生と交流学習をしました。大東小の二年生はぼくより年 みんなで協力してグループの意見をまとめてくれまし いました。四年生は意見がまとまらないで困っていると め方がてきぱきしていて発表ももり上がってすごいなあ そういえば夏休み前に大東小の二年生、三年生、 四年

うです。

永井隆さんは、「しっぽもひとやく」といって役に立たないものはない。だれでも何かの役に立てるはずだ。そんなひとになりたいといっておられました。小さいけそがなかがです。そうじだけでなく、行事や集会活動などでもリーダーにそうじだけでなく、行事や集会活動などでもリーダーにそうじだけでなく、行事や集会活動などでもリーダーにくさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心くさんの友達となかよくなって、ぼくの心とみんなの心とかいと思います。



√学生低学年の部◆

佳

みんなとなかよくなりたいな

作

島根県雲南市立 鍋山小学校 一 年

当かか 煌^ら

喜

「どきどきするなあ。 ふあんだなあ。_

なべやましょうがっこうであたらしいともだちができま てきます。 すきなものとかがちがっていても「そうなんだあ。おも かったからです。でも、いまはちがいます。ぼくには ました。それは、ぼくにはなかよしのともだちがいな しろそうだなあ。ぼくもやってみたいなあ。」とおもえ した。七にんの一ねんせいだけど、みんなおもしろくて、 ぼくは、にゅうがくしきのひ、すごくどきどきしてい

ながらいっぱいたたいてしまうこともおおくなりまし いっしょにいるとだんだんけんかもふえて、ぼくはなき でも、はじめはなかよくしていたけれど、ともだちと

> ちのたにのともだちだったらなあ。」とおもってしまい ことをかんがえているのかわからなくてぼくのこころは もあります。ともだちもしらんかおをしていて、どんな もだちのことをきらいになります。すぐに「ごめんね_ ゆうきをだして ます。だって、たくさんけんかをしてもたくさん「ごめ がいえたらいいけれど、ぼくはくやしくていえないこと ると、ともだちも、いやなことをいってきて、ぼくはと るまえよりも、もっとなかよくなれたからです。ぼくは は、けんかをしてもやっぱりともだちだし、けんかをす んね」といって、たくさんなかなおりしてきたともだち ふあんでいっぱいになってしまいます。そんなときに「い た。ぼくは、かっとなるとすぐてがでてしまいます。す

「ごめんね。」

だちが「いいよ」といってくれるまで、たくさん「ごめ といってみました。でも、ともだちはすごくおこってい て、ぼくのかおをみてくれませんでした。ぼくは、とも なべやまのともだちとも、もっとなかよくなりたいから。 んね」をいいました。だって、はやくなかなおりして、 ぼくのしょうがっこうでは、「はなさきやまかつどう

な。」としりたくなりました。と、やまにひとつはながさく」とかいてありました。ぼと、やまにひとつはながさく」とかいてありました。ぼがあります。せんせいから「はなさきやま」というほんがあります。せんせいから「はなさきやま」というほん

あるひ、ともだちが、

になりました。

したいです。 したいです。 したいです。 そうして、みんながなかよしのしょうがっこうに がところのはなでいっぱいになりました。 だくは、これからもともだちのいいところをいっぱい かっこうがっこうにはなをいっぱいさかせたい です。 そうして、みんながなかよしのしょうがっこうに したいです。



小学生高学年の部◆

秀 賞

人とつながり深まる想い

島根県雲南市立 久野小学校 六年

西に 村ら 望ぞ

美母

だろう。)私は、ずっとずっと、この疑問を持っていま まで「人」を愛し「人」のために生きることができたの (永井博士は、 なぜ、 自分の命が消えるその Ĺ ん間

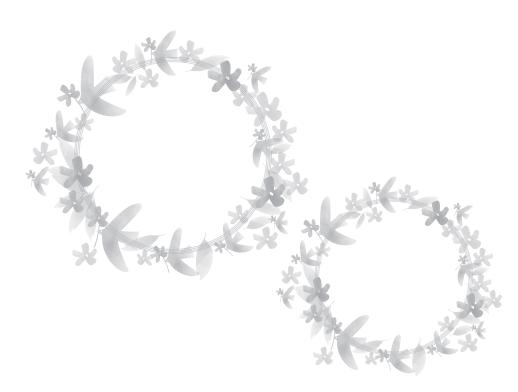
れど、どうしてそこまで「人」を愛せるのか、「人」を 象徴しています。本当にすばらしい方だと思います。け いつも「人」のためであり「如己愛人」の言葉がそれを 原爆で被爆した人たちを自分の命をかけて助けようとし ゲンの放射線で白血病になりました。にもかかわらず、 くの本を書きました。永井博士の全ての言葉や行動は た方です。さらに、ねたきりになっても平和を願い、多 永井博士は、長崎の大学で放射線医学を学び、 レント

思えるのか、実は不思議に思っていたのです。

そして私たちも、久野のいいところだと言ってくださっ こに住む人」でした。お家の人も、友達も、地域の方も、 うと思っていました。ところが、三島さんの答えは「こ るか。」ということでした。久野が好きだから、久野を 三島さんが「久野の一番いいところはどこだと思ってい 若い力で盛り上げ、活性化させようと「若志会」という く「人」なのだと気がつきました。そして、 たのです。私は驚きました。ふるさととは、 まんである桃源郷や久野川など、有名な場所や自然だろ 盛り上げてくれると思ったからです。当然、私たちの自 てくださいました。その中で私が一番聞きたかったのは きな三島さんが、私たちの質問に答え、いろんな話をし きなハウスでいちご狩りができるほどです。そんな大好 なに声をかけ、遊んでくださいます。また、お父さんが 団体を立ち上げた一人です。放課後子ども教室ではみん らでした。三島さんは、私たちのふるさと、久野地区を 合的な学習の時間に来ていただいた、三島さんのお話 一人で大変そうだからと手伝い始めたいちご作りは、大 その答えを、私は、 ついに見つけました。それは、 私の中の永 場所ではな

道で声をかけてくれる地域の方がいたからだと私は思う す。永井博士は小さいころ、運動が得意ではなかったそ 屋町)に住んでいたそうです。たぶん私と同じように博 井博士に対する疑問が、すっと解けた気がしたのです。 から、同じように「己のごとく人を愛す」ことができた のです。博士も、人に愛され大切にされた経験があった たからだと私は思います。つらいことがあっても、帰り の性格だけではなく、きっと友達や先生が励ましてくれ うです。でもスポーツをやめなかったのは、負けず嫌い 永井博士は、一歳から十二歳まで飯石郡飯石村(三刀 みんなと助け合って仲良く過ごしていたと思いま

大切にしていこうと思います。 がなくなるようで、さみしい気持ちがしていました。で さんの愛をもらった私が、今度は、これから出会う人を いつも温かい気持ちでいられます。まわりの人からたく のではないでしょうか。 私たちの久野小学校は、今年で閉校します。ふるさと ふるさとは人とのつながりの中にあると思える今、



小学生高学年の部◆

優 秀

平和ってなに

賞

島根県雲南市立 三刀屋小学校 五年

田た 中なか 太だい

土し

た戦争を始めるかもしれないからです。 配です。なぜかというと、戦争を経験した人達がどんど これからまた、 ん亡くなっていき、戦争を知らない今の大人たちが、ま ぼくの、 今一番心配なこと、それは日本の未来です。 戦争が始まってしまうのではないかと心

父も、 きっと、子どもの時に自分の父と遊んだり、 父が三才くらいの時でした。そう祖父は、自分の子ども から戦争の話を聞いたことがあります。 の顔をあまり見ることなく亡くなってしまいました。 前にあった戦争で、ぼくのそう祖父は戦死しました。 ぼくは、戦争のことはほとんど知らないけれど、 自分の父の顔を知らずに育ってきました。 今から約七十年 出かけたり 祖父は 祖 祖 祖 父

したかったと思います。

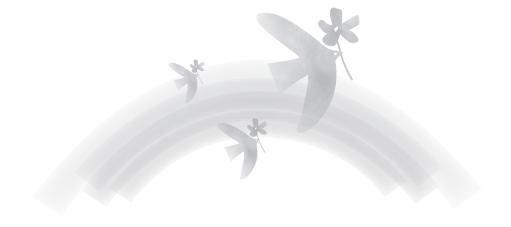
りょうをした博士のことを読めば読むほど、「平和」と がらも、人の命を助けた永井隆博士はとてもすごいと思 ました。博士は、耳の病気のせいで内科医にはなれなかっ う本を読みました。その本には、 いうことが頭にうかんできました。 た。ですが、自分のことは後回しにし、先に他の人の治 で、どんどん体が弱っていき白血病になってしまいまし いました。でも、レントゲンから出る放しゃせんのせ 人の命を助けました。ぼくは、そんな耳の病気を持ちな たけれど、それからまた放しゃせんの勉強をし、 てから亡くなるまでのことや、戦争のことが書いてあり この間、 永井隆博士の 「『平和を』いつまでも」とい 永井隆博士の、生まれ 多くの

士も、 と早く戦争をやめていれば、世界中のたくさんの家族も こわされないですんだと思います。 日本が戦争をしていなければ、祖父の家族も永井隆博 傷つくことはなかったと思います。 それに、

いうのがぼくの考えです。戦争のころを生きていた人達 なのでしょうか。どんなに考えても、 多くの家族を苦しめてきたのに、それでも戦争は必要 戦争は必要ないと

絶対にやってはならないと思います。
に、きっと毎日くるしさと、さみしさと、これなにもひ害にあう人がいるのに、なぜ今も世界中でいても、たくさんの人たちが、毎日が楽しいと思えることが平和だと思います。そう祖父のように、戦争でぎことが平和だと思います。そう祖父のように、戦争でぎいになった人達やその家族のことを考えると、戦争で終めにやってはならないと思います。

推隆博士のように、思いやりをもって生活をすることは、永井隆博士のように、思いやりをもって生活をすることだが毎日が楽しいと思えるようにすごしていきたいと思います。ぞして、戦争を知らない人達が、また戦争を始めないように、ぼくは祖父からもっと戦争の話を聞き、祖父やそう祖父のことを人に伝えたり、家族と話したりしたいです。



小学生高学年の部◆

佳

日本人も中国人も人間だよ

作

島根県雲南市立 鍋山小学校 五年

石i **飛**ど 佳ゕ 代ょ

た。日本語がわからないから、会話もできませんでした。 くできるか、仲間はずれにされないかととても不安でし 中国にいたときは不安がいっぱいでした。みんなと仲よ 私は、日本の学校に来て、その不安は当たりました。 私は、二年生の終りのころに、日本に来ました。 まだ、

間ちがっていたんだと思いました。家に帰ってから泣き みんなに声をかけようと思ってもむしされているよう た一人ですわっている気持ちでした。日本に来たことが で、いつも一人ぼっちで、だれも私に声をかけてくれま たくないのに自然に涙がぽろぽろと流れていました。 せんでした。その時の気持ちは、ただ暗やみの中でたっ そんな時、 中国の人たちが言っていたことを思い出.

知らないけど、みんなは、いつも 中国の学校では、 日本をきらっていました。 なぜかは

日本をたおせ。」

どんな人だろうなあと考えていました。中国の友だちに 国にいるとき、日本人を見てみたいなあとか、 と言っていました。私は、「日本人も見たこともない せに、なんで日本をたおすんだ」と思いました。私は中 日本人は

と聞いたら、

「日本人ってどんな人?」

「日本人は、みんな小鬼だ。」

と言っていました。

中国人をたくさん殺したようです。だから、中国の人は ります。昔、中国と日本が戦争をして、その時、たくさ よくする」「助け合う」こそが人間だと思います。 思います。人間が人間と戦うのは、だめだと思います。「仲 ほど、人はどんどん死ぬなんて悲しいと思わないかなと 日本人がきらいなのだと思います。戦争は、すればする んの人が亡くなりました。昔、戦争したとき、日本人は 中国のお父さんが、昔のことを教えてくれたことがあ

おうになりました。おと思えてきました。今、私は日本語も上手になって、かと思えてきました。今、私は日本語も上手になって、かと思えてきました。今、私は日本語も上手になって、いになるのは悲しいです。中国人が日本人をきらいなよいになるのは悲しいです。

を守り、世界を守れるようになりたい。を守り、世界を守れるようになりため、世界を守れるようにないたが、大々のことだけ思って活動した永井博士は、すごなってもたましいだけは救いたい。」「世界を平和にしたい心の優しい人だと思います。「人を救いたい。」「亡くいかの優しい人だと思います。「人を救いたい。」「亡くかなければならないと思います。「人を救いたい。」「亡くかなければならないと思います。私も、家族を守り、人々なってもたましいだけは救いたい。」「世界を平和にしたなってもたましたが落ちたあと、自分のことを守り、世界を守れるようになりたい。

道だと思います。みんなに幸せになってほしいです。これこそが、世界が愛でいっぱいあふれて、平和になる、みんな同じ人間だからこそ、「助けあって協力する。」



◆小学生高学年の部◆

佳

平 和 を

作

木次小学校 六年島根県雲南市立

坪@ **倉**§

后ら優。

優^ゅ 衣ぃ

平和とは一体何なのか。私たちの学級は春からこのこ

とについてよく考えてきました。

すれば、向こうもその事にいつか気づいて、時間がたつそんなことを言うのか、相手の気持ちを考えます。そう私たちの学級にもよくあります。そんな時は、どうして手がどう考えてもおかしいことを言い出すようなことは私は、相手を理解することだと思います。例えば、相

はどうすれば良いのでしょうか。では、どうしても相手の気持ちが理解できなかった時

とともに、いつしか互いに分かり合い、良き理解者になっ

てくれるのです。

けんかをすれば良いのです。平和とはけんかをしない

よって、相手のことが初めて深く分かることもあるからことではないと思うのです。時にはけんかをすることに

です。

博士も「己の如く人を愛せよ」とおっしゃっています。な時は『塀輪』でその人を包み込む」ことを意味します。『坪輪』とは、「みんなで輪になって、とは少し違います。『塀輪』とは、「みんなで輪になって、とは少し違います。『坪輪』とは、「みんなで輪になって、とは少し違います。『坪輪』とは必じません。そんのかない考えを排除することは良くありません。そん

むことならできる気がするのです。私は、まだ愛というものがよく分かりませんが、包み込

私たちがしなければならないことは、悪を排除するこれたちがります。そうすれば、平和は日本中に、いや、世界とではないのです。そういった存在を塀輪の真ん中に大とではないのです。そういった存在を塀輪の真ん中に大とではないのです。そういった存在を塀輪の真ん中に大きではないのです。そうければならないことは、悪を排除するこれだちがります。

私は、この夏に平和の町「雲南」を離れて、兵庫に転がです。のこうでも、如己愛人の精神を大切に新しいたます。向こうでも、如己愛人の精神を大切に新しいをがいます。向こうでも、如己愛人の精神を大切に新しいですが、努力をすればきっとなれると信じてがんばりたですが、努力をすればきっとなれると信じてがんばりたですが、努力をすればきっとなれると信じてがんばりたですが、努力をすればきっとなれると信じてがんばりたが、外間に転りによった。

私にとって、大きな出会いだったと思うのです。
この雲南で約二年間、「平和を」の学習をしたことは



学生の 部◆

賞

優 秀 知って感じて考えたい

愛知県滝学園 滝中学校 三年

伊ぃ **藤**さ 正ま

子こ

やっと会えましたね。」

被爆した弁当箱ではなく、折免さんの魂が宿っているも に懇願して、八歳の夏、広島を訪れた。私にとっては 何度も、この本を読んだ。そして、何度も何度も、 なおべんとう」という本に出会ったのは、七歳の夏だ。 の持ち主は、十三歳だった折免滋さんだ。 まっ黒なお弁当の前で、 のだった。だから、会いたかった。 そっと呟いた。まっ黒なお弁当 私が「まっ黒 両親

あつ・・・・・。

私は、 私と同じ年の人の物だった。炭化しているご飯は、 爆資料館でのことだ。そのお弁当は、堤郷子さんという 絶句した。今年の五月、 修学旅行で訪れた長崎原 物質

> 子に食べさせたいという親の愛情を感じた。 が不足している時代に、それでも、おいしいものを我

爆者というレッテル……。 と弟さんもなくされたそうだ。そればかりか、 期にご両親をなくされた下平さんは、 があり、心に深くしみた。 りにする辛さ。外傷、放射能による体の不調、不安、 のは、自分も被爆された下平作江さんの体験談だ。幼少 た悲しみ、目の前で多くの人が死んでいくのを目のあた ご自身も被爆され、心身ともに傷つかれた。 修学旅行で、一番苦しく、悲しく、でも有意義だった 実体験した方の言葉には重み 原爆で、お姉さん 家族を失っ 妹さんと

は分からない。両方あわせると、三十万人以上ともいわ のない怒りや悲しさがこみ上げてきた。 の人生が強制的に閉じさせられたこと、負傷者の方々に の心の中を素通りしていた。でも、死んだ方々一人一人 れている。あまりに大きな数字ゆえに、驚くだけで、私 生ついてまわる体と心の傷を考えると、 広島の原爆の死傷者も長崎の原爆の死傷者も、 持って行き場 正確

うして戦争をするんだろう。戦争をするってことは、 小さいころから、ぼんやりと考えていた。大人は、 سلح

を殺すってこと。幼稚園の先生も、学校の先生も、

「けんかは、いけません。」

とか

「みんなと仲良くしましょう。」

人なんじゃないかな。て、国どうしのけんかじゃないのかな。国をあげての殺って、おっしゃるけれど、大人は戦争をしてる。戦争っ

しょう。」「腹が立ったからって、何をしてもいいわけじゃないで

「何のために、お話ができるの?きちんと言葉で伝えな

えもない、行動力もない私に何ができるのだろう。学校で勉強できる。おしゃれだって楽しめる。何のとり今の日本は、竹島問題をはじめ多くの問題を抱えていに比べれば、大したことないなって、ずっと考えてきた。って言われてる男の子もいたけど、大人がやってることって言われてる男の子もいたけど、大人がやってること

島外科の場所を聞いたときだ。島外科の場所を地図で示残っている。平和資料館近くの観光案内所で、爆心地の私の耳には、六年前、広島でかけていただいた言葉が

しながら詳しく教えてくださった後、こうつけ加えられ

努力をするために……。 努力をするために……。 努力をするために……。 別のでするために……。 多力をするために……。 多い、若い人は、特によう……。」



▶中 学 生 の 部◆

優秀

祖父の思いを受け継いで

賞

糸満中学校 三年沖縄県糸満市立

玉ホッ 域*

美# 織#

·イクサーゼッタイセーナランドー」

今年七十八歳になる祖父の言葉です。

感します。ので、聞いたり、調べたり…しかし、その恐ろしさを実ので、聞いたり、調べたり…しかし、その恐ろしさを実心に重くのしかかってきます。私自身が体験していない「イクサ」、「戦争」という言葉は、いつでも私たちの

戦争は激しくなるばかり。結局、その壕を離れ、避難先に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。と追兵がやって来て、「民間人は、出ろ!我々が使う。」と追に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。そこへ日本に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。そこへ日本に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。そこへ日本に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。そこへ日本に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。そこへ日本に家族、近所の人々は逃げ隠れたそうです。

を求め、歩き始めました。その途中道端には、たくさんを求め、歩き始めました。その途中道端には、たくさんを求め、歩き始めました。その途中道端には、たくさんががら、ただひたすら歩いたそうです。食べ物は、「山草、がら、ただひたすら歩いたそうです。食べ物は、「山草、がら、ただひたすら歩いたそうです。食べ物は、「山草、ても、今の私には想像すらできません。その当時は、色々なても、今の私には想像すらできません。その当時は、それが普通。空腹が当たり前。

たちがいた小屋へ、日本兵がやって来ました。「出ていけ」 たれました。奇跡的に助かったその子は、今も元気でい 放ちました。母親は、 組の母子がいました。 と、小屋から追い出されました。戸惑う人々の中に、 でたくさんの人々が亡くなったそうです。ある日 はっきり覚えていると言います。そこでは、「マラリア」 ろへ移動します。 たりにしたのです。 ると言います。小学三年生の少年は、その光景も目の当 米兵に見つかり、 フェリーに乗せられたことを今でも 南部から北部の「二見」というとこ 子供をかばい、そのまま銃弾に撃 おびえ、戸惑う母子に兵隊は銃 祖父

暗闇の壕の中で、空腹と恐怖で泣き叫ぶ赤子。母親は

目の当たりにしたのです。必死に口を押さえる。そんな姿を、小学三年生の少年は

そして、最後の移動先は故郷、真栄平。現在祖父母が暮らしているところです。仮設小屋に親戚同士で暮らしました。それから、みんなで力を合わせ、それぞれの「家」ました。いつ自分の身の上に「死」がやってくるか、びました。いつ自分の身の上に「死」がやってくるか、びました。いつ自分の身の上に「死」がやってくるか、びくびくしながら過ごしました。床下に隠れ、ただひたすくびくしながら過ごしました。床下に隠れ、ただひたすら時の過ぎ去るのを待ちました。

「ヒンプン」。無数の砲弾の跡が目につきます。 そんな中で、いつも祖父たちを守ってくれたのがこの

「ヒンプン」を見る祖父の目は、どこか遠くをじっと見六十八年前の悲惨な出来事は想像できません。しかし、な家族の存在を実感します。そんな祖父母からは、あのす。祖父母はいつも明るい笑顔で、私たちを迎え、幸せの作った料理を食べながら、楽しいひと時を過ごしまの作った料理を食べながら、楽しいひと時を過ごしまの作った料理を食べながら、楽しいひと時を過ごしま

感じられます。少し寂し気で、悲し気で、憤りがこみ上げているように少し寂し気で、悲し気で、憤りがこみ上げているように「このヒンプンは、全部知っている。」その時の祖父は、つめているようです。「このヒンプンが守ってくれた。」

数年前に家は新築されました。しかし、祖父母の希望数年前に家は新築されました。しかし、祖父母の希望ができるのです。今日を生き、未来を語り、明日へ進むことあるのです。今日を生き、未来を語り、明日へ進むことができるのです。今日を生き、未来を語り、明日へ進むことができるのです。

※十・十空襲(じゅうじゅう・くうしゅう)

の大部分を焼失し、民間人にも大きな被害が出た。た大規模な空襲。沖縄戦の始まりともいわれ、無差別空爆で那覇市昭和十九年十月十日に、アメリカ海軍が沖縄県那覇市を中心に行っ

※ ヒンプン(ひんぷん)

が直接見えないように目隠しの役割や、魔よけの意味もある。沖縄の民家にみられる、門と母屋の間にある塀のこと。建物の内部

中学生の部◆

佳

祖父から僕へ

作

沖縄県本部町立 本部中学校 三年

伊ぃ 野๓ 波ょ 盛り

瑛^ぁ

載され、学校でも平和講演会が行われます。 く祖父の話は僕にとって大きな衝撃でした。 しかなく、実感がわきませんでした。しかし、 た人の話を聞いても、 での僕は、 の六月の平和講演会は僕にとって特別なものとなりまし 日のように、お年寄りたちの悲惨な戦争体験の記事が掲 毎年六月になると、 僕の祖父が戦争の体験を語ってくれたのです。今ま 戦争に関する資料を読んでも、戦争を体験し 『戦争って恐しいな』程度の感覚 月桃の花が咲き乱れ、 でも、 新聞では毎 初めて聴

途中の道に、 つもいつも腹をすかせていたこと。僕が一番衝撃を受 Щ 逃げたり壕の中に隠れたりした日々。 人間 の死体がゴロゴロ転がっていたこと。 逃げている

X

けたのが、祖父の同級生の死です。

日々。 ご飯を食べ、笑って楽しく話をする。そんなひと時の自 戦争は決して作り話なんかではなかった。家族と一緒に 罪もない若い命が失われなければならなかったのか。そ その子は祖父の同級生で、 由さえも許されなかった日々。毎日、 が生まれてきた。「命のバトン」を僕は受け取ったのです。 ましく生き抜いてくれたからこそ、父が生まれそして僕 世にはいません。戦争という過酷な環境下で祖父がたく れていた子どもが、もし僕の祖父だったら…。僕はこの 戦争はまさに地獄絵そのものです。そして、あの背負わ のようなことが毎日どこかで起きていたのだとすると、 本当にいたたまれない気持ちになりました。なぜ、何の たら我が子が死んでいたという母親のことを考えると、 も悲しすぎる話です。涙が出そうになりました。気づい 知らず、ずっと子供をおぶっていたそうです。あまりに 背中に背負われた幼子の頭に銃弾が貫通し即死状態。 悪な怪物です。 戦争は命も心も幸せも自由もみんな奪ってしまう 母親は我が子が死んだことも 死の恐怖に怯えた

世界のあちこちでテロが起き、 内戦や紛争が起こって

思います。
思います。
思います。
として、いつも犠牲になるのは幼い子供たち。
はないでしょうか。それは、相手の国のことを考えずに自分の国
はないでしょうか。そして、ついには、武力を使って解
はないでしょうか。そして、ついには、武力を使って解
はないためには、自分の都合、主張ばかりを通すのでは
なく、相手の立場を考えてよく話し合うことが大切だと
思います。

るのではないでしょうか。とステキな世の中にない、競い合い、公平に勝負します。人々が手を取り合えい、競い合い、公平に勝負します。人々が手を取り合えい、競い合い、公平に勝負します。人々が手を取り合えるような世界をオリンピックの時だけでなく、ふだんのと活っては、合業も肌の色のではないでしょうか。

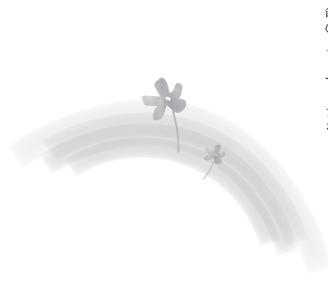
人もいなくなってしまいます。
そして、あと数十年もすれば戦争体験者はこの世から一とた人も、それを語ってくれる人もそう多くはいません。戦争が終わって今年で六十八年目を迎え、戦争を体験

無関心からは何も生まれません。私達若者が戦争につ

ているのです。私達の明るい未来は、私達自身に託されまた人間です。私達の明るい未来は、私達自身に託されます。戦争を起こすのも人間なら、平和を作りだすのもいて、平和についてもっと深く考えるべきだと僕は思い

平和への第一歩なのではないでしょうか。しる言葉があります。心の底から生きたかったであろうじる言葉があります。心の底から生きたかったであろうあれほど生きたいと願った明日」という、命の重みを感不和への第一歩なのではないでしょうか。

ます。祖父からの命のメッセージを。僕も、自分の子供が生まれたら、伝えていこうと思い



▶中 学 生 の 部◆

佳

やるべきこと

作

糸満中学校 三年沖縄県糸満市立

玉ん 城っ

由ゅ **佳**ゥ

しました。
祖母は、多くの親戚や友人を亡く気を患っていました。祖母は、多くの親戚や友人を亡く時の祖父は十七歳。その辛い体験から、長いこと心の病時の祖父は十七歳。その辛い体験から、長いこと心の病本験者です。祖父は、両親と弟と妹を亡くしました。当人の祖父母は沖縄戦で激戦地となった南部出身の戦争

嫌でそこから目をそむけていました。をしながら沖縄戦を伝える平和ガイドボランティアををしながら沖縄戦を伝える平和ガイドボランティアををしながら沖縄戦を伝える平和ガイドボランティアををしながら沖縄戦を伝える平和ガイドボランティアを

そんなある日、おばのガイドするツアーに参加する機

く中で、私の考えは少しずつ変わっていきました。ひめゆり学徒隊が追い詰められ自決した海岸を歩いて行会がありました。実際に多くの人々が亡くなったガマや

人々が暮らし、そして死んでいったガマ。ガマに入るとそこは暗闇の世界。夏だというのに寒い。息苦しさととそこは暗闇の世界。夏だというのに寒い。息苦しさととそこは暗闇の世界。夏だというのに寒い。息苦しさとの間、何を考え、何を望んでいたのでしょう。人間が人の間、何を考え、何を望んでいたのでしょう。人間が人に尋ね、おばの資料を読みあさりました。そこにある、に尋ね、おばの資料を読みあさりました。そこにある、まにこれは人間がやったことなのか」と。

れることもありました。しかし実際現地で見た資料や遺像が何日も頭から離れず、恐怖と悲しみで何度も涙が流ぜで、「はだしのゲン」を初めて見た時の衝撃。その映す。一瞬にして、何万人もの命を奪った原子爆弾。テレ子ども大使」として広島県の平和学習に参加したことで子ども大使」として広島県の平和学習に参加したことで

弁当とボランティアの方が話してくれた証言でした。に残ったのは、黒こげになったまま六十八年間残されたで得た知識や考えがもろくも崩れさりました。特に印象留品のすさまじさはあきらかに私の想像を超え、これま

した。 二歳で被爆し十年後白血病を発病した少女の話です。 二歳で被爆し十年後白血病を発病した少女の話です。 二歳で被爆し十年後白血病を発病した少女の話です。 二歳で被爆し十年後白血病を発病した少女の話です。

けることなく、もっと知り、考え、今の生活を守るため、大十八年たった今でも苦しみ続けている人々がいる。とが許されなかった六十八年前の真実から目をそむえる。それを奪う権利は誰にもない。そんな当たりまえる。それを奪う権利は誰にもない。そんな当たりまえる。それを奪う権利は誰にもない。そんな当たりまえるとが許されなかった六十八年前の真実から目をそむのことが許されなかった六十八年前の真実から目をそむのことが許されなかった六十八年前の真実から目をそむのことが許されなかった六十八年前の真実から目をそむのことが許されなかった六十八年前の真実から目をそむのことが計されなかった六十八年前の真実から目をそれである。

ました。の人達に、平和の大切さを「伝えたい」と強くそう思いに、いつの日か平和ガイドとなって沖縄を訪れる世界中

いではありません。

さが、知り得たことを「伝える」ということも並たいてことの難しさを実感しました。知識もまだまだ不十分でことの難しさを実感しました。知識もまだまだ不十分で

いう思いは変わりません。体験者の記憶とともに思いを次の世代に伝えることだとでも、平和の語り部として、戦争体験者ではないが、

今が平和だということを永遠につないでいくために。





高校生の部◆

作

沖縄が教えてくれたこと

佳

岡山県立 **倉敷南高等学校** 二年

奥なく 原は

り **龍**う

普段通りの生活が当たり前でないと意識したのは、 考える機会を与えてくれたのは、 からすぐに消えてしまう。 の数カ月だけだったかもしれない。「平和」は意識して ていい。東日本大震災が起きてから、もう二年が経つ。 いいか、どう生きることが平和へと繋がるのか。 も答えは出ない。そして、 る。 戦争を知らない僕にとって、 生死について真剣に考える機会はほぼないと言っ 意識しなければ、 僕が平和のために何をすれば 平和はいつも漠然として 沖縄だった。 僕の心の中 それを ほん

続けている。」 沖縄では、戦争はまだ終わっていない。 私たちは戦

ガイドの方は強く訴えた。 いつもニュースで見ていた

> は、 和などなかった。 全く知らなかった。沖縄に米軍基地が集中していること 普天間基地。十年前には、 他国の標的にもなりかねない。 沖縄県民がすでに不満を爆発させていること。 返還されているはずだったこ 僕が訪れた沖縄に平

苦しみ、狂気を感じることはできなかった。資料館を見 ていく。そして、過ちを繰り返してしまう。そんな考え という同情でしかなかった。被害者の方々には申し訳な がある。 持たない言葉でしかないと思う。こうやって、忘れられ 目だ」「争いはいけない」という漠然とした何の意味も く思うが、僕が次世代へ伝えられることは、「戦争は駄 も、そこから芽生える感情は「かわいそう」「ふびんだ_ ても遠い過去のことで、現実味がないように感じた。 ル、整備された道路。決して、戦争というものの残酷さ、 に囚われてしまった。 のかもしれない。事実としては、戦争や震災を認めて 僕にとって、戦争も震災も単なる歴史の一部にすぎな 僕は以前、広島と長崎に平和学習として、 しかし、原爆ドームを見ても周りに立ち並ぶビ 訪れたこと

1

ただ、そんな僕が沖縄で確かに何かを感じた場所が

があり、僕たちは一斉に懐中電灯を消した。本当の暗闇 処置の手段がなく、そこで何の世話もうちすてられてい 早くこの場所から逃げ出したいと思った。一番奥へと 戦を経験した沖縄では、 何も知らず、生きていることを当たり前のように思って たこと。信じられないことだった。苦しみ、 ゆり学徒隊がひどい扱いを受け、大量虐殺が行われてい かを感じた。こんな場所が沖縄に何百カ所もあり、ひめ を見た気がした。日常生活では決して見ることができな そんな気がした。厓のような場所で、ガイドの方の合図 ではないか。人を狂わせ、殺してしまうのではないか。 入って行くとそこが重傷者の病棟であることを聞いた。 た病人がいたことも聞いた。入ってみると、じめじめと えられる全ての邪悪な感情を感じたようだった。そして、 い景色だった。一瞬の出来事だったが、今までにない何 たと知った。孤独、苦しみが人を人でなくしてしまうの して足場が悪い。人が暮らせるような環境でないと思っ いた。糸数壕では、一般人のほかに戦争により傷を負っ 懐中電灯なしでは、すぐに転んでしまいそうになり、 糸数壕という場所であった。日本で唯一、地上 洞窟のような場所に身を隠して 憎しみ、考

入れようとしなかった。

後世へと伝えなければならない出来事を真実として受けしてしか受け入れようとせず、実際に起こり、僕たちがもっと今の自分はない。それなのに、僕は戦争を事実といた自分に怒りを感じた。戦争による犠牲がなければ、

「己の欲せざる所、人に施すことなかれ。」

これから常に人がどう思うか。それを考えて生きてと思う。当たり前のことで簡単なことだと思われるかもと思う。当たり前のことで簡単なことだと思われるかもと思う。当たり前のことで簡単なことだと思われるかもとます、難しいことだ。人に接すること。とても奥が深いきなことが知っている言葉だった。単純な文章にもかかわいきたいと思った。

◆高 校 生 の 部◆

佳

みえる平和とみえない平和

作

三刀 屋高 医椎原式

三刀屋高等学校 二年

陶がいた。

聡 史

普通でないことを知っていないとできないことだから。とができる。家に帰れば家族がいて、一緒に食卓を囲むことができる。家に帰れば家族がいて、一緒に食卓を囲むえる平和がみえない平和。難しく聞こえるかもしれないえる平和がみえない平和。難しく聞こえるかもしれない。みず、要は、普段通りの日常を当たり前に思えるということが、要は、普段通りの日常を当たり前に思えるということは、

を謳っても、それは数多くある中の一面でしかない。 りがいかに平和であるのかが嫌というほどよくわかる。 「一つの変だけ存在するとというほどよくわかる。 で、これも一つので和なのかもしれない。でいったい で、で、これも一つのでであるのかが嫌というほどよくわかる。 で、これもでで、これもであるのかが嫌というほどよくわかる。 で、これもであるのかが嫌というほどよくわかる。 に、私の思さないこと」これもで和、「何も起き ないこと」これも一つので和なのかもしれない。で和の に、我の周 で、その日一日を生きていくために

私の知っている世界は狭すぎる。私の知らない誰かは、私の知っている世界は狭すぎる。私の知らない誰かは、戦争の真っ只中で、もしれない。私の知らない誰かは、戦争の真っ只中で、い所で望まれている世界は狭すぎる。私の知らない誰かは、私の知っている世界は狭すぎる。私の知らない誰かは、

る。私の募金を使って医師が傷ついた人を助けたとしたいた人を救ってくれる医師を助けることはきっとできがいても、その傷を治すことはできない。しかし、傷つし、戦争を止めさせる力もない。また戦争で傷ついた人私には全ての飢えに苦しむ人達を救うことはできない

ばならない。

普通に日常を過ごせることをありがたいと感じなけれ

私のみえる範囲では、高校へ行き勉強をす

同じ歳でも、

戦争に行き武

ることが当たり前であるが、

所でつながる平和が生まれるのではないか。そうやって人と人とが助け合っていくことで、みえないら、間接的ではあるけれどそれは人を助ける行為になる。

だろう。
難しいことも一つの現実として理解しなければならないの平和を手に入れられることが一番ではあるが、それがの平和を手に入れられることが一番ではあるが、それがあんなで平和な世界を作っていき、みんながそれぞれ

みえない平和を作ることはできるかもしれない。だが、目にみえる平和を作ることは難しくても、目に

目にみえる平和が戦争がなくなったり、飢えで苦しむ人がいなくなったりすることだとすると、目にみえない 平和は心の平和だ。人とのつながりや感動があれば、ど 不されることはないと思う。そして、心の平和なら、自 たされることはないと思う。そして、心の平和なら、自 たされることはないと思う。そして、心の平和なら、自 たりするだけでも、小さいながら他人に影響を与えられ る。自分にとってうれしいことがあったなら、それを人 と共有してうれしさを分かち合う。結局やることは単純

つながり続ければ大きな力になると思う。大切だ。一人ひとりの結びつきは弱いかもしれないが、かもしれない。でも、人と人とがつながっていくことが

いつか来るといいと思う。
える所でもみえない所でも、みんなが幸せになれる日が当の平和になるはずだ。互いが互いに関わり合って、み当の平和とみえない平和。両方がそろって初めて本

人間であるということを忘れてはいけない。のせいであること、そして、それを解決できるのもまたがいたということ、人間が苦しんでいるのは、結局人間で和という言葉が出来た裏には、平和でなかった人達

◆高 校 生 の 部◆

作 自分にできること

藤 源 は

_{みなみ}

「何かまだ手伝うことがありますか?」

はあるが、私はこの言葉は重みがあると思う。ることがあるかの確認に使っている。当たり前なことでは簡単で、やり残していることはないか、まだ私にでき際に必ず最後に尋ねる言葉である。この言葉を使う意図のれば私が、アルバイトやボランティア活動を行った

変わってしまった瞬間、あなたはこの言葉が言えるだろでの道のりを目の当たりにしたからである。二〇一一年での道のりを目の当たりにしたからである。二〇一一年を出ての当時、慌ただしいニュースの中で何度も聞き、復興ま

実行に移していた。

を延びたことで、自分にできることをいち早く把握し、ちではない。しかし、震災によるパニックの中でも冷静らではない。しかし、震災によるパニックの中でも冷静らではない。しかし、震災によるパニックの中でも冷静のがはない。しかし、震災によるパニックの中でも冷静のではない。

飛んでいった。
一つ出来事を挙げるならば、震災から数日が経ち、避れの炊き出しが始まると高校生くらいの男子が真っ先に対の炊き出しが始まると高校生くらいの男子が真っ先に難所では寒さの中たくさんの人々が集団生活を送ってい

自由な老婆のところへ持っていき周囲の人は勝手だなと思い見ていると、豚汁を足の不

温かいうちに飲んでね。」

直したということがあった。と言い残し、自分のをもらいに長い行列の後ろに並び

うにテレビやラジオで放送され、日本国内の人々に留ま人の思いやりが見て取れた。様々な震災被害が連日のよきた。また、みんなで生きようとする生命の底力と日本この記事を目にした時、他者への愛情が深く伝わって

らず、ついには世界各国が援助をしてくれるようになっ

かつて戦争でいがみ合っていたアメリカも励ましのエールや支援を送ってくれた。これはとてもすばらしいエールや支援を送ってくれた。これはとてもすばらしいことではないだろうか。一九四五年八月十五日の終戦の日からまだ七十年も経とうとしていないのに敵同士だった両国が互いを受け入れ、助け合っている光景はまるで、時が経ち、時代は移り変わり誰もが自分にできることを探し、東北地方の復興という一つの目標を見つめていた。場所によってできることは違ってくるが、そのどれた。場所によってできることは違ってくるが、そのどれもが辛い避難所生活を送っている東北の人たちにとってもが辛い避難所生活を送っている東北の人たちにとっては励みになっていただろう。

しれない。しかし、非日常に変わってしまうのは一瞬で、たがっているのは今の日本が平和であるからということに繋がっているのだと思う。ただ朝起きて学校へ通い、仲のがっているのだと思う。ただ朝起きて学校へ通い、仲のがっているのだと思う。ただ朝起きて学校へ通い、仲のがいないようが良い。そして、そんな体験をしなくて済験しない。とかし、非日常に変わってしまうのは一瞬で、

とだってある。それはとても耐えられない。もしかしたら今まであったものが全て失われてしまうこ

ば必死に生きることに繋がっているのだと思う。でたくさんある。それは全て私の夢であり、十八年間をがたくさんある。それは全て私の夢であり、十八年間をがあれば必死に叶えようとする。叶えようとするならにでがあれば必死に叶えようとする。叶えようとするならば必死に生きることに繋がっているのだと思う。

らの期待に応えたい。

私は若くてまだまだ経験が足りない未熟な存在だ。し

がしそんな未熟な存在だからこそこれからの未来をもっ

がしそんな未熟な存在だからこそこれからの未来をもっ

たとえそれが重荷となり、自分にのし掛かってきたとたとえそれが重荷となり、自分にのし掛かってきたとあるたい。初めの一歩は小さくてもそれは、それだけ信頼されている証拠なのだろう。

私は言える。

部◆ 般 の

賞

平和な春の空の下で

秀

優

兵庫県

松まっ **|||**かわ 千鶴子

年八十二歳。 産で渡独した折、お会いしていたので信じられなかった。 昨秋、 私の人生をただ唯一の身内であるあなたに、是非 娘の嫁ぎ先の義父、 突然の訃報だった。私はその四月に娘の出 ダニエルが亡くなった。 享

聞いてもらいたい。」初孫の寝顔を見ながら談笑してい 界大戦が始まり、 彼はドイツ系ユダヤ人。 くの人に助けられ、 はアウシュビッツに送られた。当時十二才だった彼は多 ンゴルに逃げた。 ダヤ人地区で両親兄弟と暮らしていた。だが、第二次世 る最中に突然言われ、私は彼の波乱な人生に耳を傾けた。 ナチスから逃れるためロシア経由でモ しかし、その間に両親は殺害され兄弟 モンゴルに到達した。終戦を迎えて ドイツ、ハンブルクで生まれユ

> た。 徴兵までに何とか国を脱出しなければならないと彼は奔 と彼に平和が訪れたと思った矢先、ペレストロイカ、ベ その許可が下りたのが息子が十六才になる一週間前だっ 運び、必死の思いでドイツからの許可を待った。そして 走し、ドイツ、コール首相の東西統一政策の下、 ン紛争が勃発した。 ルリンの壁崩壊の民主化の波に並行するようにチェチェ そして、五十近くで一人息子に恵まれた。ところが、やっ 分がユダヤ人であるため、 に於いてのユダヤ人受け入れを知り何度も大使館に足を つもりだったが、一人のロシア人女性と出会い結婚した。 も行く所が無くロシアで職を得、そのまま居住した。 当時息子は十五才と八ヶ月、 結婚は考えず生涯独身でいる ドイツ 自

その成長した息子と娘が巡り合い七年の交際後結 私たちと深い親交が結ばれた。

声 拳を握りながら続けた。「お前は生きろ。」と叫ぶ父親 連続で何度も気が変になりそうだったとダニエ 着いた辺境地での言い知れない孤独とそれまでの恐怖 が耳から離れない。 世界中でたった一人になった少年が、 最後に握ってくれた母の手の温 命からがら辿 ル な固く n

そればかりか、この娘夫婦が暮らすフランクフルトのア 今も続いている。それがよもやこういう形で接点が出来 無数に砕かれた墓石が放置されたままになっている。 広がってい 迫害。「アンネの日記」に涙した少女の頃から、 話に戦場で戦った父を重ねていた。 ていいほど誰かが現れて助けてくれた。」と彼は微笑ん かけたことも幾度となくあった。「そんな時、必ずと言 ほど墓石は痩せ、全てのものが傾き苔むしていた。また、 ター内にある塀にめぐらされたユダヤ人墓地が居間から るとは、況してや親族になるなんて思いもよらなかった。 ようになった。 話す父。次第に私も感化され戦争についての文献を読む は子供の頃から毎日というほど戦争の話を聞かされてい がした。 いると涙を拭った。 私はその微笑を見ていると胸が締め付けられる思い 戦後二十年経っていても、 トにはユダヤセンターが隣接しており、そのセン 自分を庇ってくれた兄達の後ろ姿が目に焼きついて 彼の微笑みは深く私の心に染み入る。 る。 日 刻まれていたはずの名前も判明できない モンゴル、 ロッパ戦線、ヒットラー、 まるで昨日の事のように ロシアでの放浪、 その傷痕は深く、 ユダヤ人 私は彼の それは 餓死 私 物

書わぬそれら全部があの悲惨な戦争を物語っていた。息言わぬそれら全部があの悲惨な戦争を物語っていた。息言わぬそれら全部があの悲惨な戦争を物語っていた。息言わぬそれら全部があの悲惨な戦争を物語っていた。息

亡地アウシュビッツとなっているものが綿々と連なって 姿が見えなくなるまで見送った。 な墓地に響いた。 死亡地が刻まれていた。 り、そこに亡くなった方の生年月日と没年月日、 れ出ていた。「私たちは平和で静かに暮らしたいだけな れた息子の目には堪えきれなくなった涙が堰を切って流 61 トの塀には十五センチ角程のプレートが埋め込まれてお んです。」喉から搾り出した彼の言葉が痛々しかった。 ように私を深く抱擁して帰って行った。 た。 数日後、 塀に沿う道は砂利で敷き詰められ、 私は塀に沿って歩いてみた。そのコンクリ 砂利のことを後で息子に訊くと、 それを何気なく見ていると、 通訳を一 私は佇み、 生懸命してく 歩く音が静か そして それ 彼

半日ほどの時が流れ彼は話し終わると、

別れを惜しむ

してくれた。

ないようにするためにわざと敷き詰めているのだと説明は軍隊の行進の音を再現させ、決してあの時の事を忘れ

今も忘れられない。 ザック ザックと軍靴の音をこの平和なドイツの春の 中で聞くダニエルの気持ちを慮った。決してあの時 空の下で聞くダニエルの気持ちを慮った。決してあの時 空の下で聞くダニエルの気持ちを慮った。決してあの時 での下で聞くダニエルの気持ちを慮った。決してあの時 での下で聞くダニエルの気持ちを慮った。決してあの時 での下で聞くダニエルの気持ちを慮った。決してあの時 での下で聞くダニエルの気持ちを慮った。





● 般 の 部 賞 日常の優しさ 川 井 康 之 ゆき こ

・はじめに

た。かえった中から、―工場が爆発したんだ…と誰かが言っかえった中から、―工場が爆発したんだ…と誰かが言っとやがて大きな松茸のような形になった。しんと静まり、灰色の筒のような煙が空にのびて先端が広がり始める

下校となった。その日は、皆と帰る道ではなく、遠回り広島でなにか異変が起きたのだということで、早目の

の土手の道を走った。大切に履いていた藁草履の鼻緒がの土手の道を走った。大切に履いていた藁草履の鼻緒があり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれがあり、嬉しさで心ははずんだのに、何故か涙があふれいました。

広島に投下された日のことである。大切さを知ったような気がする。世界で初めての原爆が私はこの時、初めて人の心の優しさ、愛というものの

日常の優しさこそ

黙って彼の差し出した手には、緑の松葉にいっぱい刺し、東郊八キロほどの所にある村の学校へ転校した朝礼ら、東郊八キロほどの所にある村の学校へ転校した朝礼がんでいいのやら、途方にくれていると目の前に半ズボがんでいいのやら、途方にくれていると目の前に半ズボがんでいいのやら、途方にくれていると目の前に半ズボンに草履を履いた日に焼けた男の子が立ちふさがった。、東郊八キロほどの所にある村の学校へ転校した朝礼が、東郊八キロほどの所にある村の学校へ転校した小学校時である。新一年生の入学式を兼ねていると目の前に半ズボルにである。

たのだが無言の彼の後について列の後部に並んだ。たピンクの桜の花びらがあった。―ありがとう、と言っ

朝礼が終って教室に入る時も、誰からも指示がないの朝礼が終って教室に入る時も、誰からも指示がないのな気分になった。一二、三日したら席替えをしますからんだ…と、安堵感でその日の行事はすべて終了したようんだ…と、安堵感でその日の行事はすべて終了したような気分になった。一二、三日したら席替えをしますからな気分になった。一二、三日したら席替えをしますからな気分になった。一二、三日したら席替えをしますかられる。それまではそこに座ってください。

けてある白い布に林竹と書いてあった。の花びらをくれた彼は初めてニッと笑った。胸に縫いつ私が紹介されて、勝手に自分で座った席に戻ると、桜

こともあろうに私が選ばれたのだ。だと感じていた。そして三年一組の演じる劇の主人公に、で中止されていたが、学芸会を平和な時代の始まりなのんで半年が過ぎようとしていた。都会の学校では戦時中その学年の終りに近く、学芸会が開かれた。戦争がす

年を見守る周囲の同級生たちが、温かく支えて頑張る物原爆で両親をなくして、苦しい時代を懸命に生きる少

守歌をうたう。 一お母さ~ん、と山彦のようにクラス全員が応える。そ―お母さ~ん、と山彦のようにクラス全員が応える。そあまり、夕陽に向かって―お母さ~ん、と呼ぶ。今度は語だったように憶えている。清流の中の河原で寂しさの

ほど泣いたのを思い出すのです。そんな雰囲気に私は心からの優しさを感じて、恥かしい見つけて、思わず私も涙を流した。会場のあちこちでの、父兄のひとりとして涙を拭いもしないで観ていた母を

・結びにかえて

働いた永井博士が好きなんですよ。 サラリーマン生活の終りに近い頃、ある全国紙の編集 サラリーマン生活の終りに近い頃、ある全国紙の編集 サラリーマン生活の終りに近い頃、ある全国紙の編集

院で逝去、との知らせが入った。
た。入院中のある日「長崎の鐘」の人は、京都の大学病帰途交通事故に遭って半年の入院生活を余儀なくされ、十歳の定年がまもなくという年の三月、私は取材の

日をやりながらひとこと呟くように言った。 そんな沈んだ状況の中、ひとりの友人が見舞いに来ててるんです。病室から見える小学校への坂道の桜並木にてるんです。病室から見える小学校への坂道の桜並木にてるんです。病室から見える小学校への坂道の桜並木にてるんです。病室から見える小学校への坂道の桜並木に目をやりながらひとこと呟くように言った。

だと教えられます。

愛。優しさ。それは日常の中に、ふんだんにあるもの



◆ 作 戦争に大義はない 長 坂 隆 夫*

人間の歴史は同じ過ちの繰り返しの歴史であると言え

るのではないでしょうか。

『安らかに眠ってください。過ちは二度とくりかえしま

おります。

・過ちの実態を知らなければ警告の意味はありません。

・過ちの実態を知らなければ警告の意味はありません。

・過ちの実態を知らなければ警告の意味はありません。

が二度と帰らぬ戦地へと飛び立って行った悲劇も人々のりました。今ではこの平和に日本の地から多くの若者達かつては語られた戦争の悲劇も耳にする事は少なくな

記憶から風化しつつあります。

り返す危険は少なくないと言えるでしょう。 ・大がったのかと反問され、返事に窮する事があります。 ・大がったのかと反問され、返事に窮する事があります。 ・して厭だと拒否しなかったのか、何故言われるままにし ・して厭だと拒否しなかったのか、何故言われるままにし

残して戴ければと思います。 残り少なくなった私達世代の最後の警告として記憶に

生活でした。
、大量の部屋に四名の生活で、ノミやシラミに悩まされた、一場に動員され、工場で寮生活をおくっていました。。
、戦時中旧制中学生であった私は、学徒動員によって兵

した。併し、人は自分の安全の為に他人の死さえ無視す逃げ遅れて後から来た人々が講堂の窓を激しく叩きま

講堂には多くの人がいましたが、誰一人口を開きませんきました。彼らの体から青紫の炎が立つのがみえました。た。 彼らは鉄線入りの窓を破れず、次々と力尽きてゆるのでしょうか。だれ一人窓を開けようとしませんでし

いました。
更にその上に乗り、窓を叩き続けた人の遺体が重なって山積みになっていました。黒焦げの人の頭、腕、胴体、山積みになっていました。黒焦げの人の頭、腕、胴体、

た教科書の印象が今も忘れる事ができません。たランドセルを背負った女の子の遺体があり、散らばっおす先の路上に、女性の方に頭を向けてうつぶせに倒れが手を差し伸べた状態でなくなっていました。その指の燃え尽きた家の防空壕では、母親と見られる若い女性

怒哀楽の感情さえも麻痺していたのでしょうか。しみの感情も、敵への憎悪も沸いてきませんでした。喜累々たる遺体の山を見ながら、当時の私は不思議に悲

殺されていった路上の死者たちの事を思い出し涙がとま歳月が流れ、平和な時代を迎えると、何の意味もなく

各地の記念館を訪れて、戦時中の特攻隊員の遺書、遺

品の数々を拝見しました。

感胸に迫るものがありました。 淡々と綴られた一言、一言に複雑な思いが忍ばれ、万

られていました。
た遺書の文面には、国の為に死んでゆく決意と喜びが綴た遺書の文面には、国の為に死んでゆく決意と喜びが綴る音、泣き言を吐く事の許されない状況の中で綴られ

でした。
恋人への慕情が忍ばれ、その場を離れる事ができませんがし、文面の片隅に肉親への断ちがたい惜別の思い、

が様々なのは致し方のない事かもしれません。遺品の数々を前にしても、世代や個人によって感じ方

たいと思っています。ない道を旅立っていった事実がある事を後世に語り継ぎたすら国難を救うためと信じて、生きて二度と帰る事の併し、今日の自由と平和の陰には、私達の同胞が、ひ

戦争とは華やかな戦記に残された英雄の物語ではあり

毎日を泥にまみれて生き、ません。

野良犬の様に死んでいった

無名の

人の戦い

のなのです。

どんな美辞麗句を並べても、戦争を肯定する大義名分

は絶対にありません。

日本の国歌にある様に

苔が生えるまで永遠に平和な国』

であって欲しいと願わずにおれません。







◆一般の部◆ 佳作作

「ありがとう」が平和の絆

石川県

神馬せつを

君は嬉々として汗を流している。

一次やかな朝の空気を胸一杯に吸い込みながら「おはよ
を、かかな朝の空気を胸一杯に吸い込みながら「おはよ
を、がかな朝の空気を胸一杯に吸い込みながら「おはよ

とのようでは、で汗を流していると、みんなの心が「ひとつ」になきなくて、たまには誤解を生むこともあるのだが、新聞意気には感心するばかりだが、言葉や宗教などが理解で生活習慣の全く違う日本に来て「働きながら学ぶ」心生活習慣の全く違う日本に来て「働きながら学ぶ」心

がっている。好評で、配達地域のあちこちで小さな国際親善の輪が広好評で、配達地域のあちこちで小さな国際親善の輪が広しかも、彼らの明るさや元気の良さが地域の人々にも

の間に横たわる『わだかまり』を、自分たち若者の手でいう国は複雑な存在でした。過去のころれた。いう国は複雑な存在でした。過去の戦争体験が教訓という国は複雑な存在でした。過去の戦争体験が教訓と中国人のリュウさんは、「子どものころから、日本と

の広さなら日本人も負けてはいない。中国は国土も広いが心も広い人が多い。もちろん、心

くれる人までいる。届けてくれたり、洗剤などの日用品や、衣類まで届けて属けている留学生諸君にと、わざわざ新鮮な野菜を

ら帰ってきた。泣き出しそうな笑顔である。ある日、リュウさんが紙袋を抱えながら笑顔で配達か

れからもがんばってください」というメモが入っていた。その紙袋の中には、図書券と「いつもありがとう。こ

が、なにより嬉しいのである。「ありがとう」という感謝の言葉をかけてもらえること物をもらうことが嬉しいのではない。地域の人々から

しあえるはずである。 人間同士なのだから、腹を割って話し合えれば必ず理解 文化や言語、生活習慣こそ違うが、この地球上の同じ

なっている。地球とかかわっていくかという認識が不可欠な時代に地球とかかわっていくかという認識が不可欠な時代になく、世界中の一人ひとりが人間として、いかに人類や世界のあるべき平和像は、もはや国家間や地域間では

本に対する率直な提言などもしてくれる。留学生諸君は、新しい世界観を持ち合わせていて、日

えてくれている。ひとりが自立し、責任のある地球人であるべきだ」と教についても「国境や言葉、民族、宗教などを超えて一人もはや一国レベルでは解決できないグローバルな課題

な行政を推進したいものである。だからこそ、留学生諸君の率直な声を反映させるよう

な障壁の解消に向けて、積極的に行動することが大切だ国籍や民族や文化などの違いからくる精神的、制度的

と思う。

日本の命題だろう。
文化共生社会」を実現していくことは、経済大国を誇る文化共生社会」を実現していくことは、経済大国を誇る発展途上国の人々への差別や偏見の解消に向けた「多

留学生諸君に、日本の文化や伝統を理解してもらうこどの「多言語化」も進めていく必要がある。旅行者にも、もっとわかりやすい情報提供や相談体制な日本の文化や習慣に不馴れな留学生諸君や海外からの

ろうか。とこそ、私たち一人ひとりに与えられた責務ではないだ

テーマだと思う。 それは、日本のどの地域のどんな人々にも共通した

という手紙が届いた。た地震が発生した直後には、「津波の被害はありません大地震が発生した直後には、「津波の被害はありません」では、「はいがない」では、「はいがない。マレーシア沖で

かけたことが、日本での楽しい思い出になりました」と見ることは少ないのですが、ユカタを着て花火大会に出花火大会が禁じられていて、街や空を赤く染める花火を中国に帰った女子留学生からは、「中国では都市部で

いう絵葉書が届いたりもする。

い忘れがちになる。
う言葉は、万国共通の優しく温かい愛の言葉なのに、つう言葉は、万国共通の優しく温かい愛の言葉なのに、つが添えられていて、心が癒される。「ありがとう」という感謝の言葉手紙の最後には必ず「ありがとう」という感謝の言葉

ろう。に接していれば、必ず「平和」という宝物に出会えるだつも「ありがとう」という心と、愛のある言葉で人や物つも「ありがとう」という心と、愛のある言葉で人や物一人ひとりが、なにごとにも感謝の気持ちを持ち、い





第二十三回 島根県雲南市永井隆平和賞 最終選考作品一覧ならびに受賞

岡	合	坂	澤	倉	葉	氏	!
煌	飛	真	寧	かなめ	は	Ø	
喜	竜	也	己	るめ	な	名	
							1
みんなとなかよくなりたいな) 学校も心もピカピカに!	ぼくのしあわせ	いのちを大事に	どんなこんなんにもまけない	わたしのかんがえた「へいわ」	テーマ	
島根県	島根県	島根県	島根県	島根県	島根県	都道府県名	
雲南市立鍋山小学校 一年	雲南市立久野小学校 三年	雲南市立久野小学校 一年	雲南市立三刀屋小学校 三年	松江市立八雲小学校 三年	雲南市立三刀屋小学校 二年	学校名	
佳作	佳作	佳作	佳作	優秀賞	最優秀賞	賞名	
 49 —	-						

小	氏 学	生	仏学	年の	部】 最終選考に進んだ作品すべてが、受	受賞されました。	部 当 守 長 二	学 交 3	学したコ
勝	葉	は	な		わたしのかんがえた「へいわ」		島根県	雲南市立三刀屋小学校 二年	最優秀賞
石	倉	か	なめ		どんなこんなんにもまけない		島根県	松江市立八雲小学校 三年	優秀賞
廣	澤	寧	己		いのちを大事に		島根県	雲南市立三刀屋小学校 三年	佳作
大	坂	真	也		ぼくのしあわせ		島根県	雲南市立久野小学校 一年	佳作
落	合	飛	竜		学校も心もピカピカに!		島根県	雲南市立久野小学校 三年	佳作
今	岡	煌	喜		みんなとなかよくなりたいな	•	島根県	雲南市立鍋山小学校 一年	佳作
小	学	生食	高学	年 の	部】				
西	村	望	美		人とつながり深まる想い		島根県	雲南市立久野小学校 六年	最優秀賞
田	中	太	士		平和ってなに		島根県	雲南市立三刀屋小学校 五年	優秀賞
石	飛	佳	代		日本人も中国人も人間だよ		島根県	雲南市立鍋山小学校 五年	佳作
坪	倉	優	衣		平和を		島根県	雲南市立木次小学校 六年	佳作
影	Щ	月	南		命の大切さ		島根県	雲南市立掛合小学校 六年	
小	林		心		私にできる最初の一歩		島根県	雲南市立西日登小学校 六年	
Щ	田	琴	水		みなちがってみんないい		島根県	雲南市立田井小学校 六年	
青	木	快	斗		ぼくにできること		島根県	雲南市立飯石小学校 五年	
深	田	健	斗		平和を伝えたい		島根県	雲南市立飯石小学校 六年	
永	見	健	健太郎		ぼくたちで世界を平和に	•	島根県	雲南市立飯石小学校 六年	

【中学生の部】

	3				
氏	名	テーマ	都道府県名	学 校 名	賞名
伊藤	正子	知って感じて考えたい	● 愛知県	滝学園滝中学校 三年	最優秀賞
玉城	美織	● 祖父の思いを受け継いで	• 沖縄県	糸満市立糸満中学校 三年	優秀賞
伊野波	盛瑛	● 祖父から僕へ	• 沖縄県	本部町立本部中学校 三年	佳作
金城	由佳	やるべきこと	• 沖縄県	糸満市立糸満中学校 三年	佳作
永瀬	七夏海	● 世界を平和にする方法	●島根県	雲南市立掛合中学校 三年	
石田田	航大	● 曾祖父の愛から学んだこと	●島根県	雲南市立吉田中学校 三年	
池田	愛沙	● 平和学習	● 大阪府	大阪女学院中学校 三年	
長尾	光倫	● 『その無上のものを創り継ぐのはあなた』	た』・埼玉県	西武学園文理中学校 一年	
上地	未来	● 平和宣言	• 沖縄県	名護市立屋我地中学校 三年	
【高校生	の部	最優秀賞・優秀賞は、該当がありませんでした	た		
奥原	龍	沖縄が教えてくれたこと	● 岡山県	倉敷南高等学校 二年	佳作
陶山	聡史	みえる平和とみえない平和	●島根県	三刀屋高等学校 二年	佳作
藤原	南	自分にできること	●島根県	飯南高等学校 三年	佳作
佐藤	瑞恵	● 親子の絆	• 神奈川県	横浜女学院高校二年	
玉井	奈々子	● 心の平和を	• 神奈川県	横浜女学院高校 二年	
丸岡	菜緒	● お互いに愛し合う	● 神奈川県	横浜女学院高校二年	
玉木	つくる	● 試練は人生からのメッセージ	● 岡山県	倉敷南高等学校 二年	
髙木	優衣	● 産み出される平和	● 岡山県	倉敷南高等学校 二年	
大見謝	結	● 命の大切さ	● 沖縄県	那覇西高等学校 三年	

【一般の部】

	島根県	知られざる漁師達の戦争		中郎	尾	Щ
	神奈川県	● 「小さな小さな愛と平和」−日本語ボランティア教室から−	,	淑子	藤	安
	島根県	「ありがとう」と学ぶ日々		末鳥	桜	小
	愛知県	思い遣る心		勲	桐	田
	新潟県	無関心		百合奈	井	坂
	新潟県	こうすけ君からの贈りもの		修	見	逸
佳作	石川県) 「ありがとう」が平和の絆	J	せつを	馬	神
佳作	千葉県	戦争に大義はない		隆夫	坂	長
優秀賞	広島県	日常の優しさ)	康之	井	Ш
最優秀賞	兵庫県	平和な春の空の下で	,	千鶴子	Ш	松
賞名	都道府県名	テーマ		名	氏	

